

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	総合支援センター(学生活動支援機構)
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2011年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価		
		2011	2012	2013
1. 「発達障がいのある学生」に対する修学支援(授業保障)と自立支援を行なう支援プログラムを策定する。	プログラムの策定状況 評価基準: A→修学支援、自立支援の両プログラムを策定 B→どちらか一方を策定 C→評価基準なし D→両方とも未策定		B	
2. 「聴覚障がいのある学生を支援するための遠隔情報保障システムを新しい学生支援メニューとして導入する。	遠隔情報保障システムの年間運用回数 評価基準: A→5回以上 B→3～4回 C→1～2回 D→0回		B	
3. 「こころ」や「身体」に困難を抱える学生を支援することについての理解・啓発を促進させる教職員向けプログラムを実施する。	啓発プログラムの実施回数 評価基準: A→2回以上 B→1回 C→評価基準なし D→0回		A	
			☆	
2012年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2011	2012	2013
	→			
	→			

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	発達障がいのある学生の修学支援（医師の診断書有）は、当該学生の困難の状況に応じ、履修相談対応、テストやレポート提出に向けたスケジュール立案支援、計画立案の支援、ノートテイク等を実施した。また診断書のない発達障がい学生やその傾向のある学生支援について、「要支援学生かどうか」を大学内で一定のプロセス（面談→心理検査→専門家（教員等）の判断を経て支援するかどうかを判断する支援制度を設けた。 また、自立支援策として、カウンセラーとの協働で、試験的にSST（ソーシャル スキル トレーニング）を実施した。
目標2	遠隔情報保障システムを可能にするIP-TALKソフトを利用し、春学期と秋学期に実施している大学人権問題講演会やキャリアガイダンス等、全学的なプログラムに対し、情報保障を実施することが出来た。 *IP-TALKとはLANを用いて複数人で入力、修正を行なうシステム（連携入力システム）のソフトウェアで、インターネット経由での入力に対応しており、通信環境が揃えば遠隔地からの情報保障が可能。
目標3	こころや身体に困難を抱える学生の理解と啓発を目的に、2012年度は理工学部（人権問題講演会プログラム）と文学部（FD研修会）の教職員を対象に実施し、カウンセラーとコーディネータが発題を行なった。 また、本学主催、日本学生支援機構及びひょうご発達障害者支援センターの共催で「発達障害学生支援研修会」を実施した。
備考	